

## インターバンクの声（2014 年 8 月 8 日）

前日の海外市場で、短時間とはいえ 101 円台まで下落していた円相場にとって、既に東京市場が始まる前から 102 円台に回復していた相場がさらに円安に進むには願ってもない報道が飛び込んできた。年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）の運用方針について、現在 12% の日本株への配分比率を 20% 超に変更する調整がまとまりつつあることが、政府・与党関係者への取材から分かったらしい。この報道に 102 円前半の 200 日移動平均線で下値がしっかり維持できるような動きになりかけているように見えたが、ウクライナ情勢の先行き懸念を中心にした市場のリスク回避志向が強く、再び 102 円割れを試すような展開となっている。ドル円が円安傾向に戻るには、ウクライナ情勢が平和裏に解決に向かうか米長期金利が上昇する気配を見せないと難しいかも知れない。金融政策の変更はないだろうとの見方が大勢だった欧州中央銀行（ECB）理事会だが、注目されたドラギ総裁の会見発言がユーロ安に傾いていたことで 1.33 ドル台前半まで押し下げる結果となった。市場参加者の多くが予想し始めている 1.30 ドルが視界に入ってきた。当面は、ユーロが反発したところを売りに掛るのが最も計算できる取引かも知れない。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。